

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	一般小売店〔衣料品・雑貨〕（経営者）	・2月前半までは同じ状況が続くと思われるが、ホテル等の宿泊施設によれば2月後半から3月にかけては県外からの卒業旅行などの観光客が多数来る予定があるとのことであり、現在よりも1.5倍の売上目標額を十分達成できる。 ・2月以降は観光客の増加が見込める。
		その他専門店〔楽器〕（経営者）	
		観光型ホテル（商品企画担当）	・4月には沖縄サミット以来の大型国際会議があり、ホテル業界は上向きマインドがある。しかし、現時点で仮予約はあるものの、具体的な受注状況はみられず、直前で空きが出るなどのリスク感も同時にある。
	変わらない	百貨店（担当者）	・月末から天候が崩れ、雨が多く、客の動向が鈍化傾向にある。また本土も気温低下により冬季セールが好調に推移していることから、春商品の展開・入荷が一般的に遅れる傾向にある。結果として沖縄においても春商品の入荷状況が悪くなっており、冬セール商品の在庫減と連動し、月初の好調に陰りがみられ始める。今後の動向は気温の変化と春物の入荷状況により変化することから、若干景気動向は悪化もしくは現状維持にて推移する。
		スーパー（経営者）	・去年の夏場から年末にかけて競合店の出店が相次ぎ、競争も一段と激しさを増している。来客数では前年を上回っているものの、依然として客単価が厳しい状況であり、結果として既存店の売上では前年並みがやっとの状況である。今後2、3か月後もそのような状況が続く。
		スーパー（企画担当）	・客単価は引き続き低く、極端に上がることはない。しばらくは、来客数の伸びでそれをカバーしつつ、売上増につなげられる。
		コンビニ（経営者）	・競合店に勝つため、売れ筋の商品と粗利が良い商品を取り入れ、利益を出す努力をしている。
		コンビニ（エリア担当）	・新規出店は好調に推移しているが、5年以上経過している店舗の売上は落ち込みが激しいことから、総合的には現状維持となる。
		コンビニ（エリア担当）	・沖縄の経済環境が急速に悪化しない限り、マーケットニーズに的確にこたえてさえいれば、変わらず好調に推移する。
		観光名所（職員）	・台風、地震、海外の大津波等、暗いニュースが多く、旅行環境が依然として良くない。また、3月には愛知万博が開催されることから、沖縄への入域客の増加は厳しい。
ゴルフ場（経営者）	・年末年始に、東京・沖縄間の航空料金が上がったことの影響が大きく、航空会社は急きょ、航空料金を下げて集客を図ったようだが回復が難しい。この流れは2、3か月は続くことと予想されることから、今後は現在と同様に推移し、前年を下回る結果になる。		
やや悪くなる	コンビニ（経営者）	・消費税の上昇ムードやガソリン価格の高値感など、どれをとっても庶民の財布のひもを緩める材料にはなり得ない。	
	その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・今までは停滞期でも比較的低価格のイベントで客をひき付けることができたが、低価格というだけでは客をひき付けられなくなっている。地域密着で情報の発信や外商を行っている店舗は目標を達成している。相当な努力をしないと、安定した来客は望めない。	
	住宅販売会社（経営者）	・市町村、県、国の財政は良くなる見通しはなく、また、増税が予想されることから景気の回復は難しい。	
	住宅販売会社（従業員）	・今年に入り建築資材の値上げが取りざたされているが、とりわけ鉄鋼材の値上げによる影響は厳しく、今年も厳しい状況が続く。	
悪くなる	商店街（代表者）	・中心商店街には、観光客の来客数は多いがリピーターが多く、なかなか売上には結び付けられていないようである。一般客は相変わらず外周部の大型店に流れており、危機的状態が続いている。	
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	建設業（経営者）	・引き合い件数が増加している。
	変わらない	通信業（営業担当）	・高速、安価の通信サービスが主流になっているので、受注量を大幅に増やさない限り売上増に結び付かない。受注量自体は増加しているが、伸び率は依然として低料金による売上の減少をカバーできていない。

		不動産業（支店長）	・景気が回復する良い材料が見つからない。
	やや悪くなる	輸送業（営業担当）	・生鮮貨物の船便へのシフトが進む中、航空便の扱いがより厳しくなる。
	悪くなる	不動産業（従業員）	・賃貸部門の契約のピークが1～3月であるため、3か月後はかなり落ち込む。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（経営者）	・4月にIDB総会という大きなイベントが開催される。IDB総会の開催に伴って非常に多くのものが動くという期待感があることからやや良くなる。
		人材派遣会社（営業担当）	・求人数の増加傾向が引き続きみられる。求職者の動きも活発に動き始め、年度末に向けて期待が持てる。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・新卒者を迎える時期で繁忙期になるが、いろいろな職種・新会社・新店舗などの掲載が増えてきたことから求人数の増加が見込め、先行きはやや良くなる。
	変わらない	求人情報誌製作会社（総務担当）	・今のところ、特に悪くなる要因が見当たらない。
職業安定所（職員）		・求職申込件数は、新規で前年同月比27.4%、月間有効で14.8%とそれぞれ増加傾向となっている。また、求職者は滞留傾向にあり、いったん離職すると再就職は厳しく、特に新規求職者申込件数においては主婦層を中心としたパート求職、雇用保険受給者及び県外希望の求職者が増加している。新規求人数は前年同月比で67.9%増加しており、求職、求人とも増加傾向で、今後も改善の動きがみられるが、求人、求職間のミスマッチから、雇用情勢は依然として厳しい状況が続く。	
学校[専門学校]（就職担当）		・県外でも県内でも業界により好・不調がはっきり分かれている。IT系の企業は採用活動が活発であるが、建設業やサービス業全般に関しては採用を見送っている企業も多数ある。全般的にはプラスマイナスゼロとなっており、今後もこのような状況が続く。	
やや悪くなる	学校[大学]（就職担当）	・公共工事の減少で建設業を中心に厳しい状況を迎えつつあり、3月銀行決算と3月末決算を控え、各企業のリストラは当面続き、雇用情勢は厳しくなる。	
	悪くなる	-	-